

報道声明 (2017年9月8日)

トム・ラブジョイ博士、ジェーン・ルブチェンコ教授、ボブ・ワトソン博士

岐路に立つ地球環境・解決策は存在する・行動に移す時は今

状況は：

- 全世界で人々の健康と繁栄、福祉が危機に瀕しています。私たちの未来は、個人、地域社会、国家、国際社会がより良い地球の守り手となるべく行動を起こすか否かにかかっています。
- 人口の増加と持続不能な消費パターンが相まって、陸上と海洋の両方で生物多様性は喪失、生態系は衰弱しつつあり、人間が引き起こした気候変動は勢いを緩めることなく進行しています。
- 気候変動は生物多様性と生態系を脅かし、生物多様性の喪失と生態系の劣化は翻って気候にさらなる影響を与えます。したがって、それらの両方に同時に対応していくことが必要です。
- 愛知生物多様性ターゲットの大多数を達成できる国は、あるとしてもごくわずかでしょう。また、パリ協定の誓約がすべて実現されたとしても世界の平均気温上昇を産業革命前から2°Cを大きく下回る水準に抑えることはできず、対策を強化しない限り地球の気温は3°C以上上昇する可能性が高いとみられます。
- 生物多様性の喪失と急激な気候変動は、健康、経済、国家安全保障、持続可能な開発の機会などのさまざまな領域で人間に悪影響を与えます。つまり、私たちが幸福でいられるかどうか、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の17項目を達成できるか否かは、これらをいかにコントロール出来るかに左右されます。

解決策は：

- 幸いにも多くの解決策が存在し、実行され始めています。しかし、それらの解決策は世界的な方向性に影響を与えるほどの規模には至っていません。
- それらの解決策は、意識や政策、技術の活用とともに人々の日常の行動を変革することにより、貧困を撲滅し、健康な生活を確保し、全人類の食糧、水、エネルギーの安全保障を実現しながら、地球環境を保護できる可能性があることを示しています。
- 今こそ行動すべき時です。

地球環境が岐路に立たされていること、今すぐ行動すべきであることは間違いありません。環境を保護するための費用効果が高く社会的に容認される政策や技術が存在していることは知られていますが、問題はそれらに取り組む国民と政治の意思があるかどうかです。

生物多様性は、海洋と陸上のどちらも遺伝子、種、生態系のレベルにおいて前例のないペースで喪失し続けています。大気中の二酸化炭素濃度は 400ppm を超えており、異常気象は増加の一途をたどり、2017 年は観測史上最も暑い年となりました。

ここ数年、(i) 生物多様性条約愛知ターゲット、(ii) 気候変動に関するパリ協定、(iii) 国連持続可能な開発目標など、称賛に値する重要な政治協定が相次いで締結されています。それぞれが複雑な問題に対する極めて積極的な取り組みを象徴しています。

すべての国を対象とした国連の持続可能な開発目標 17 項目がすべての国で統合的に実現されれば、世界が社会的、環境的、経済的に持続可能な方法で発展していくことが可能になります。同目標は、気候変動や陸上と海洋の生物多様性から、食糧、水、エネルギーの安全保障、人間の健康、性、持続可能な生産と消費、平和と安全まで、あらゆる重要な問題を網羅しています。

問題は、各国政府が愛知ターゲット 20 項目を通して生物多様性と生態系を保護し、人間が引き起こす気候変動を産業革命前の水準から 2°C 以内に抑えることを約束しているにもかかわらず、個別および共同での取り組みが全く不十分であり、努力を強化しない限りそれらの意欲的な目標は達成されそうにないということです。

なぜ行動の強化が自分たちのためになるのか、なぜ成果につながる対策が必要なのかといったことに対し、国民や実業界および政界のリーダーたちの認識を促す機会が十分ではない、と私たちは考えています。重要な点として挙げられるのは、生物多様性の喪失と人間が引き起こした気候変動は単なる環境問題にとどまらず、社会、経済、安全保障、開発の問題でもあるということです。生態系の喪失と気候変動に歯止めがかからなければ、すべての国が持続可能な開発目標のほとんどを達成することができなくなるでしょう。

生物多様性と生態系は、食糧、繊維、清潔な水、医薬品などの恩恵をもたらし、洪水、大気および水質、授粉、地球の気候を調整するなど、多くの人々が当然だと考えている、生命の維持に不可欠な機能を果たしています。生物多様性と生態系は、学習と刺激、身体的および心理的経験、場所の感覚を育むという意味で多くの社会にとって文化的に極めて重要な意味を持ちます。人間が引き起こす気候変動と生物多様性の喪失はいずれも、(1) 食糧と水の供給を逼迫させ、(2) 熱ストレスや生物および水が媒介する病気によって人間の健康を危険にさらし、(3) 海面上昇や、高潮を緩衝するマングローブや海藻の森、サンゴ礁の喪失によって沿岸地域に脅威を与え、(4) 社会的結束と平和を揺るがします。すなわち、生物多様性の喪失と人間が引き起こす気候変動は、国連の持続可能な開発目標にとって非常に重要な解決すべき問題なのです。

もう一つの重要なポイントは、人々の幸福に対するそれらの脅威を和らげ、それらに対応するための実行可能な解決策が存在することです。建築、輸送、産業セクターにおいてエネルギー利用を効率化するとともに、エネルギー生産を石炭、石油、ガスに依存した化石燃料経済から再生可能エネルギー技術を主体とする経済へと転換することによって、世界が低炭素経済に移行できることは間違いありません。太陽光および風力をはじめ、再生可能エネルギー技術のコ

ストはここ 10 年で大幅に低下しており、貯蔵技術の飛躍的な進化も相まって、太陽光発電などの断続的なエネルギー源の有用性は向上しています。つまり、今後数十年でエネルギー由来の二酸化炭素排出量を劇的に削減できるということです。

しかし、「世界の平均気温上昇を産業革命前から 2°C を大きく下回る水準に抑え、1.5°C に制限する努力を追求する」というパリ協定の意欲的な目標を達成するには、各国政府が取り組みを大幅に強化することが必要です。企業と国民にも、自ら行動を起こすとともに政府による取り組みを支援するという重要な役割が求められます。さらに、エネルギー由来の二酸化炭素排出量の削減に向けた取り組みと同時に、農業由来のメタンおよび亜酸化窒素排出量と森林破壊に伴う二酸化炭素排出量の削減も実行しなければなりません。

食糧安全保障を確保し、健康で美味しい食料の供給を維持するには、持続可能な漁業が重要になります。現在持続不可能な規模と方法で行われている漁業によって、海洋は豊富な海産物源としての能力を失いつつあります。漁業の賢明な改革が実現できれば、衰退した漁業を立て直し、漁獲量を大幅に増やすことが可能であることは、近年の経験から明らかです。賢明な漁業政策は、魚介類の消費量の増加、利益の拡大、海洋生態系の健全化につながります。漁業政策を成功させるための方法は十分に理解されていますが、実行には移されていません。完全な海洋保護区の設置は、漁業改革を確実に補完し、また生物多様性と生息地を保護し、気候変動に対する回復力を構築する上でも極めて重要です。

森林破壊を減速させ、劣化した生態系を修復することは、人間が引き起こす気候変動を制限するだけでなく、生物多様性の喪失を抑制するためにも不可欠です。生物多様性と生態系は、陸上および海洋に保護区を設置し、法律および規制上の権利に基づく幅広い経済的、財政的、社会的、文化的政策手段を通じて、生物多様性に対する関心を農業、林業、漁業、養殖の事業の中心に据えることによって、保護することができます。成功には、異なる政策分野を横断する統合的なアプローチ、あらゆる利害関係者の関与、革新的なガバナンス戦略が必要となります。

残された時間はあまりありません。今私たちが行動しなければ、未来の世代は今よりももっと貧しい世界を受け継ぎ、なぜ社会的および経済的に容認できる政策、技術、実践が可能であった時代に先人は何故自分たち子孫のことを考えず環境を略奪したのかと思うことでしょう。